

合掌村 合掌づくり

下呂温泉合掌村にある 10 棟の家屋は、合掌造りの藁葺き屋根が特徴的です。合掌造りは「合掌している両手」を意味します。屋根の形が合掌している両手に見えることから、このように呼ばれています。急角度で三角形の屋根は、雪深い岐阜県と富山県では、屋根に大量の雪が積もって家屋が崩壊するのを防いでくれます。合掌造りの家屋は、木材と縄だけで組み上げられており、まさに建築学的奇跡です。屋根は乾燥させた芒（ススキ）でふかれています。合掌造りの家屋は、19 世紀の岐阜県の村々の文化や伝統を来訪者に垣間見せてくれます。

家屋のほとんどは 2 階建てか 3 階建てですが、旧大戸家住宅のように例外的に 4 階建てのものもあります。どの家屋にも囲炉裏があり、常に火がたかれています。囲炉裏からの煙によって、屋根を乾燥させて害虫を防ぐことができます。一部の家屋では、2 階にも外に通じる扉があります。この扉は、積雪によって 1 階のメインの出入り口が塞がってしまっている時に使われます。

1 階は、家族が日々の作業を行う場所になっていました。囲炉裏のある部屋に加えて、台所、食堂、及び先祖に祈りを捧げるための仏壇が備えられていました。梯子のように急で狭い階段が各階をつないでいます。2 階以上は、しばしば養蚕や生糸の生産など、産業的目的に使われました。

合掌村の家屋のうち 9 棟は、岐阜県の白川郷から移築されたものです。10 棟目は、富山県の五箇山地方から移築されました。